

蓮池さん知りたいたい!!

中央大 季刊誌 後輩たちが特集号

八王子市の中央大学法学部に在学中の一九七八年に北朝鮮に拉致され、十月に帰国を果たした蓮池薫さん(45)の特集が、今月発行された母校の学内季刊誌「Hakumonちゅうおう」で組まれた。九月の日朝首脳会談で蓮池さんの生存を知った同誌の学生記者ら九人が「蓮池さんのことを、後輩としてもっと詳しく知りたい」と企画を立ち上げ、取材を続けていた。

二十一頁にわたる特集の巻頭は、「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」代表幹事で中大四年生の渡部一実さん(23)が、帰国翌日に蓮池さん本人に行ったインタビュー。学生記者から執筆を依頼された渡部さんが、張りつめる緊張感とともに、温かみの感じられる文章を寄せた。

旧友らへのインタビュー、さらにノンフィクション作家の高山文彦さんの寄稿文などが掲載され、読み応えのある出来になっている。

中大では一九九八年、蓮池さんが希望すれば復学を認める決定をしたが、その経緯を取材したのは学生記者の一人、野倉早奈恵さん(21)。拉致された時、新潟県柏崎市の実家には、手形・小切手法の講義で出され



蓮池さんの特集が掲載された学内報を手取る野倉さん(左)と関さん

た課題のリポートが書きかけで残されていた。蓮池さんの母親がそれを持って「復学を認めて」と頼みに来たのがきっかけだったことが分かった。

「自分も今年の前期、手

形・小切手法の授業を受けたので、蓮池さんが身近な存在に思えた」と言う。

また、蓮池さんの大学時代の友人に話を聞いた文学部二年の関敦子さん(20)は「四半世紀も前のことを、

友人たちからこんなにくさん聞けるなんて」と感慨深げだった。

中大広報課は「力作が出来たと思う。これをきっかけに、より多くの人々が拉致事件のことを考えてくれれば」と話している。

「北朝鮮に拉致された中大生を救う会」などでは、十二日午後三時二十分から中大九号館で、蓮池さんの兄の透さんの講演会を開く。学内誌、講演会の問い合わせは中大広報課(☎0426・74・2148)へ。